

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。暑い日々から一転、朝夕の寒さを感じられるこの季節、皆様はお変わりございませんでしょうか。

今回は先日、ホームラン44本でアメリカンリーグホームラン王のタイトルを見事獲得した、エンゼルス大谷翔平選手に注目しました。日本選手が大リーグでホームラン王を獲得するのは史上初の快挙で、アジア出身選手としても大リーグ前人未踏の快挙です。大谷選手は右ひじの靭帯損傷や脇腹のケガの為9月3日のアスレティックス戦以降欠場するなど、今シーズンは135試合の出場でしたが、6月と7月に合わせてホームラン24本と驚異的なペースでホームランを量産し、タイトルを獲得しました。

また、首位打者と打点王を含めたバッターの主要3部門でのタイトル獲得は、日本選手では2004年に首位打者を獲得したイチローさん以来、19年ぶりだそうです。タイトル獲得にあたり、大谷選手は『大リーグでこれまで活躍された偉大な日本選手たちのことを考えると、大変恐縮であり光栄な事です。この目標を達成するのに協力してくれたチームメイト、コーチングスタッフ、ファンに感謝します』とコメントを発表しました。

また日本ハム時代、二刀流を育て、WBCでは監督として世界一に輝いた栗山英樹さんは、『日本の多くの国民たちに夢と希望を与え、未来ある子供たちに道を示してくれたのではないかと思います』とコメントを発表しました。

私も大谷選手・栗山英樹さんのコメントを聞いていただけで、感動を覚え、元気を貰っているかのように思えます。

皆様も夢と希望を持ち、明るい未来へ向かって毎日を元気に送られる事を切に願っております。

寒暖差が激しい毎日ですが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

平凡な日々に感謝を—— 生きることについて考える物語

その方は40代半ばで末期のガン（ステージ4）と診断され抗がん剤治療を行い自宅へ戻られた方でした。単身で自分の生活を守ろうと職場にも復帰し過ごしていました。

そんな中、癌が再発。入院となり麻薬が処方されましたが効果が表れずに痛みにも苦しみ疼痛管理が上手く行ってから再度自宅へ戻ったのです。職場への復帰を目標にお姉さまが泊まり込み介護をしていました。

定期訪問でお会いすると体調が優れないもどかしさを話され泣かれていました。以前のように一人での生活を望まれていましたが叶わない事に憤りを感じお姉さまへ辛い言葉をぶつけていたのです。なんと言葉を掛けたら心が軽くなるのかと考えながらの会話の中現実の厳しい状況に手だてが無く「大丈夫ですよ。みんなが付いているから心配はありませんよ」と言うのが精一杯だった事を思い出します。

自宅での痛みが続きトイレの前で座り込んだ時も何度か訪問してベットへ返るお手伝いに駆けつけると、ご本人様は泣きじゃくっていたのです。「大丈夫、大丈夫」と声を掛けましたが一緒に涙が零れてしまいました。

その後、大学病院へ相談した結果、再入院となり余命宣告をされたとお姉さまから泣きながら連絡が来たのです。ただ生きていだけ・・・生きていだけ・・・そんな平凡な事ができない人がいます・・・

その悔しい思いを考えると毎日報道されている世界情勢の中で、自分たちの私利私欲の為に幼い子供達を戦争と言う大義名分で傷つけている人が居る現実に関心痛みます。

今を一生懸命に生きなければいけない。そして、生きている平凡な毎日に感謝しなければならないと思うのです。



サンライズのデイサービス陽光だより



11月カレンダー製作

各自、折り紙でキツネと落ち葉を作り、貼り付けてカレンダー工作をしました。



誕生日

誕生日カードを差し上げおやつでホットケーキを出しました。皆さん「ありがとう」「ホットケーキ美味しい」と言って喜んで召し上がっていました。



NEWS 今月のニュース

“カジノ”で楽しく介護予防 県内初の遊技活用デイ事業所 高知市に11月開所

まるでカジノ！？ ブラックジャックやスロットマシンなどの遊技要素を取り入れたデイサービスが11月中旬、高知市内で開所する。遊技を通じて介護予防や認知機能の維持を図る事業所は、県内初。25日には体験会が開かれ、高齢男性らがゲームを楽しんだ。

高知市鴨部1丁目のデイサービス「WIN」。施設内には本格的なブラックジャック台、スロットマシン4台、全自動マーチャン卓、囲碁、将棋などがずらり。利用者は、換金や商品交換ができない施設限定の疑似通貨のチップを使ってゲームを楽しむ。通貨は、百歳体操など機能回復訓練をすることで獲得できる。

運営するのは、同市内の放課後等

デイサービスで働いていた中峰智美さん(34)。退職後の高齢男性が家にひきこもりがちだと聞き、男性も自発的に通えるサービスを模索。行きつけのバーで80代男性がいきいきとブラックジャックを楽しむ姿を見て、遊技を取り入れるアイデアが浮かんだという。

カジノなどの遊技を介護に生かすデイサービスは、10年ほど前から首都圏などで増加。駆け引きや点数計算などで脳の働きを活性化させたり、利用者同士の交流や感情体験を促したりする効果が期待される。一方でギャンブル依存症に陥る恐れも指摘され、兵庫県や神戸市のように「遊技型デイ」に一定の規制を行う自治体も出ている。

このため、「WIN」では1日の利用時間を最大3時間に限定。利用者の状態に合わせてケアマネジャーとケアプランを作成し、遊技が適切な介護予防につながるよう徹底する

という。

この日は高齢者8人がブラックジャックなどを体験し、秋本年晴さん(74)＝日高村＝は「最近では体力が落ちて外で遊ぶ機会も減ったから、みんなでワイワイ遊ぶと楽しい」。中峰さんは「男性でも気軽に通える社交場のような場所にしていきたい」と話している。(相良平蔵)



来月開所予定のデイサービス事業所でブラックジャックを楽しむ体験者(高知市鴨部1丁目)

<高知新聞Plus 23/10/26(木)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>